

(2015年)平成27年	10月5日(月曜日)	琉球新報・沖縄タイムス	(朝刊)
分類名 44	婦人の福祉	その他(新聞)	夕刊

# 子どもを貧困から救うには

## 県推進計画・検討委員に聞く(上)



原雅志さん  
島尻教育研究所所長

うえはら・まさし 1983年に北国中学校採用。糸満中・三和をへて大里南小学校校長、渡名喜小中学校校長、糸満市教育委員会指導部長や糸満中学校長を歴任し2014年に島尻教育事務所所長、この3月末に退職した。4月から島尻教育研究所所長。



金城 さや佳さん  
サンエー社員

きんじょう・さやか 1987年糸満市生まれ。サンエー社員。10歳から20歳まで島城市にある児童養護施設「鳥添の丘」で暮らした。大里南小、大里中をへて県立同陽高に進学。琉大に進学したが中退した。2013年にサンエーに入社し、現在に至る。

「5人姉妹の4番目として生まれた。父は船舶乗組員、母は病気を患い、子育てが難しいため、祖父母に育てられた。祖父が亡くなった後は、長女が両親宅にとまり、姉たちは「鳥添の丘」で暮らし始めた。私は乳児院をへて里親家庭で育てられた。」

「当事者の声を代弁する立場から委員になった。生い立ちを聞かせてほしい。」

「経済的な問題にとまらず社会的・文化的な貧困もある。例えば、全国的な問題として、児童相談所の判断で、小学4年生から施設に入所した。貧困が成長や人格形成に及ぼす影響をどう見るか。」

「全国的な問題として、児童相談所の判断で、小学4年生から施設に入所した。貧困が成長や人格形成に及ぼす影響をどう見るか。」

「全国的な問題として、児童相談所の判断で、小学4年生から施設に入所した。貧困が成長や人格形成に及ぼす影響をどう見るか。」

「全国的な問題として、児童相談所の判断で、小学4年生から施設に入所した。貧困が成長や人格形成に及ぼす影響をどう見るか。」

# 給付型奨学金充実を

「大学進学後に中退せざるを得なかった。」

「学費と生活費を稼ぐためアルバイトで目いっぱいになり、同級生になじめなかった。同級生は自家用車を持ち、遊びに出掛ける。環境の違いを羨し、孤立した。学校を休みがちになり、休学・復学を繰り返して、7年在籍したが結局、中退した。」

「現在、サンエーの正社員として働いている。きつかけは。」

「サンエー直営の飲食店でアルバイトをしていて、店長から中途採用試験を勧められ正社員になった。入社後は、自分を対等に扱ってくれる人がいるんだと実感できたし、自信につながった。」

「貧困状態にある子どもたちに対して、どのような支援が必要か。」

「給付型の奨学金制度の充実が求められる。貧困下にあると希望が持ちにくい。外の世界を知ること、視野が広がれば将来に希望が持てるようになる。私は施設に出入りしていた学習ボランティアの女子大生に憧れ、進学した。家族や施設職員以外の第三者が、子どもたちに関わる機会をシステムとして整えてほしい。児童養護施設に関しては退所前に年金や税金、保険、(各種契約に必要な)連帯保証人について学べる機会が必要だ。」

# 基礎学力の定着大切

「貧困下にある全ての子どもには当てはまらないが、親にゆとりがない。多くの親も親母も困窮している。多くの親も親母も困窮している。多くの親も親母も困窮している。」

「貧困は学力や成長にどう影響すると感じるか。」

「貧困は学力や成長にどう影響すると感じるか。」

「貧困は学力や成長にどう影響すると感じるか。」

「貧困は学力や成長にどう影響すると感じるか。」

「貧困は学力や成長にどう影響すると感じるか。」

「貧困は学力や成長にどう影響すると感じるか。」

「欠席したり妨害したりするようになる。年齢が上がるほどに自信を失い、心が持たなくなってしまう。」

「小学校低学年から確かな学力を身に付けられる体制づくりが大切だ。学力があれば自尊心が高まり、自信が付き、考える力が高まる。事

「中学校の校長をしていただく。地域の人や保護者に学習ボランティアの協力を要請したが、集まらなかった。思い切ったボランティアを奨励した方がいい。パートで働くよりは、学校で学習ボランティアをしたいと思える人を集め態勢を整えた方が継続できる。地域の人と関係性があれば、子どもは豊かに育つ。子どもを貧困に陥らせない仕組みを長いスパンで構築してほしい。」

# 子どもを貧困から救うには

## 県推進計画・検討委員に聞く(中)



宮城 光宏さん

県児童養護協議会副会長

みやぎ、みつひろ 1947年生まれ。琉球大学社会学科を卒業後、70年に県庁入庁。主に福祉、児童関連の施策に携わり、石川児童養護施設長などを歴任した。2007年3月に県庁を退職。10年4月から美さと児童養護協議会副会長として、県児童養護協議会副会長は2期3年目。



金城 隆一さん

沖縄青少年自立援助センター ちゅらゆい代表理事

きんじょう、たかかず NP O法人沖縄青少年自立援助センター・ちゅらゆい代表理事。1973年那覇市生まれ大阪育ち。中学を除給処分になり、16歳で夜間中学校に入学。20歳から引きこもり支援。2005年に帰郷、引きこもりの親の会を始め、10年にちゅらゆいを設立。

「不登校の子どもの居場所をつくっている。2013、14年は那覇市から委託し生活保護世帯の中学生を対象とした。利用者数は31人。食事提供を入りに支援する。出口として進学・就職へ誘導することを目的としている。3年生で高校進学した子が16人いた。しかし、その後、通っていないのは4人。高校での就学・生活・就労支援が急務だ」

「児童養護施設「美さと児童園」の園長を務めている。入園する子どもと家庭の貧困は関係しているか。「県内児童相談所の相談内容を全国と比較すると、養護相談と非行相談が割合が断トツで高い。養護相談の中でも児童虐待の相談は高い水準で推移している。全国的な傾向として5・6割は虐待が理由で養護施設に入所する。基本的には経済的な問題というよりは、虐待を受けている」

# 卒業後の援助も重要

子どもが入所している。「しかし、親が経済的にゆとりがないために、子どもをほったらかしでいる。入所する子どもの中に裕福な家庭はほとんどない。虐待の背景に経済的な問題が潜んでおり、貧困との関係は十分にある。学習塾に通った子はほとんどおらず、家庭の学習指導もなされていないので入所する時点で基礎学力も低い」

「現行の制度で不十分な点は、「施設にいる間は金銭的に困ることはないが卒業して進学、就職した後の支援は全くない。進学する場合、ついでに子どもはほとんどおらず、家庭の学習指導もなされていないので入所する時点で基礎学力も低い」

「卒業後の資金に直面する」「卒業後の資金に直面する」「卒業後の資金に直面する」

# 高校での支援が急務

「不登校と貧困の関係は。①不登校3層ある。②中流家庭③生活保護世帯④生活困窮世帯だ。10～15年前は①が多かった。現在は②③が多い。複合的な課題を持ち、不登校は課題の一つだ。那覇市の中学生の不登校児童の割合は全体で3.6%だが、生活保護世帯は19.5%。多くが定時制課程に進学するものの中退率は11.7%。中退後に35%がニート化する。就職しても労働条件の悪い環境が多い。困窮世帯の子どもの自尊心が低く、モデルとなる人もおらず負の連鎖につながる」

「貧困には経済的、社会的、文化的の三つがある。経済的貧困は制度の活用で解消される。一方、文化的貧困は家庭で育まれてきた風土や文化で、深夜徘徊を問題視しない教育環境などがある。これが阻害要因となり、社会的貧困を生み出し、子どもの自立が阻害されている。現在は、

「支援には3段階ある。まず子どもをつかまえる。学校は子どもの問題をいち早くキャッチできる。しかし学校で全て担うのは不可能で、外部の機能を拡充し連携する。次に子どもを育てるのだが、研修や職業訓練などのサービスだけでは参加できない。寄り添い型支援が必要。食の提供、学習支援、キャリア教育など総合的に支援する。高校生には中退防止に校内での居場所を設置する。最後に出口支援として職場体験、職業訓練、定着支援などで社会へ接続する」

「小中高校期の生活・就労支援が全くない。親が主体的に相談に来ないような子どもたちは、高校を中退した支援が届かなくなる。学校にいる間に居場所をつくる必要がある」

「聞き手 稲橋政俊」

# 子どもを貧困から救うには

## 県推進計画・検討委員に聞く(下)



宮城 雅也 北城 雅也 北城 雅也 北城 雅也

「ひとり親世帯の世帯について聞かせてほしい。2013年の調査は全国平均の9.6%に対して沖縄は11.4%と高い。原因は妊娠期の喫煙や低栄養だ。貧困との関連ははっきり分かっていないが、妊婦が貧困状態にあると、胎児への影響を考えると余裕がなく、自己管理しにくく考えられる。胎児の頃から管理してあげないと、子どもが将来的に肥満や成人病

「ひとり親世帯の世帯について聞かせてほしい。2013年の調査は全国平均の9.6%に対して沖縄は11.4%と高い。原因は妊娠期の喫煙や低栄養だ。貧困との関連ははっきり分かっていないが、妊婦が貧困状態にあると、胎児への影響を考えると余裕がなく、自己管理しにくく考えられる。胎児の頃から管理してあげないと、子どもが将来的に肥満や成人病



小那覇 涼子 小那覇 涼子 小那覇 涼子

# モデル事業拡大を

「ここではアパートを借り上げて住居を提供している。母子世帯には家賃負担が大きいため、家賃を心配しなくていい期間中に資格を取得するなどのスキル不足を解消して就職を目指す。多量債務の問題

「ここではアパートを借り上げて住居を提供している。母子世帯には家賃負担が大きいため、家賃を心配しなくていい期間中に資格を取得するなどのスキル不足を解消して就職を目指す。多量債務の問題

# 就学前の発見重要

「乳幼児健診で地域を回って感じたことはある。若年出産の受け止め方に地域差がある。与那城・勝運は10代の出産が多いが、若くして子どもを産むことへの抵抗感

「乳幼児健診で地域を回って感じたことはある。若年出産の受け止め方に地域差がある。与那城・勝運は10代の出産が多いが、若くして子どもを産むことへの抵抗感

# ひとり親世帯の貧困率は50%を超える

「ひとり親世帯の貧困率は50%を超えることから、対策を整理する。総合的、包括的な支援を行っている。子どもたちの状況は、収入が1人分で厳しい状況にある。入学費用を工面できない世帯もある。子どもたちの学習支援もしているが、塾に通うことがない子が多い。これまでも中学生の支援に力を注いできたが、小学生の

「ひとり親世帯の貧困率は50%を超えることから、対策を整理する。総合的、包括的な支援を行っている。子どもたちの状況は、収入が1人分で厳しい状況にある。入学費用を工面できない世帯もある。子どもたちの学習支援もしているが、塾に通うことがない子が多い。これまでも中学生の支援に力を注いできたが、小学生の

ひと暮らし 社会保障

を抱えている人も多く、自己破産や任意整理をはじめ借金を整理する。総合的、包括的な支援を行っている。子どもたちの状況は、収入が1人分で厳しい状況にある。入学費用を工面できない世帯もある。子どもたちの学習支援もしているが、塾に通うことがない子が多い。これまでも中学生の支援に力を注いできたが、小学生の

「ひとり親世帯の貧困率は50%を超えることから、対策を整理する。総合的、包括的な支援を行っている。子どもたちの状況は、収入が1人分で厳しい状況にある。入学費用を工面できない世帯もある。子どもたちの学習支援もしているが、塾に通うことがない子が多い。これまでも中学生の支援に力を注いできたが、小学生の

「ひとり親世帯の貧困率は50%を超えることから、対策を整理する。総合的、包括的な支援を行っている。子どもたちの状況は、収入が1人分で厳しい状況にある。入学費用を工面できない世帯もある。子どもたちの学習支援もしているが、塾に通うことがない子が多い。これまでも中学生の支援に力を注いできたが、小学生の

「ひとり親世帯の貧困率は50%を超えることから、対策を整理する。総合的、包括的な支援を行っている。子どもたちの状況は、収入が1人分で厳しい状況にある。入学費用を工面できない世帯もある。子どもたちの学習支援もしているが、塾に通うことがない子が多い。これまでも中学生の支援に力を注いできたが、小学生の

「ひとり親世帯の貧困率は50%を超えることから、対策を整理する。総合的、包括的な支援を行っている。子どもたちの状況は、収入が1人分で厳しい状況にある。入学費用を工面できない世帯もある。子どもたちの学習支援もしているが、塾に通うことがない子が多い。これまでも中学生の支援に力を注いできたが、小学生の

「ひとり親世帯の貧困率は50%を超えることから、対策を整理する。総合的、包括的な支援を行っている。子どもたちの状況は、収入が1人分で厳しい状況にある。入学費用を工面できない世帯もある。子どもたちの学習支援もしているが、塾に通うことがない子が多い。これまでも中学生の支援に力を注いできたが、小学生の

「ひとり親世帯の貧困率は50%を超えることから、対策を整理する。総合的、包括的な支援を行っている。子どもたちの状況は、収入が1人分で厳しい状況にある。入学費用を工面できない世帯もある。子どもたちの学習支援もしているが、塾に通うことがない子が多い。これまでも中学生の支援に力を注いできたが、小学生の

「ひとり親世帯の貧困率は50%を超えることから、対策を整理する。総合的、包括的な支援を行っている。子どもたちの状況は、収入が1人分で厳しい状況にある。入学費用を工面できない世帯もある。子どもたちの学習支援もしているが、塾に通うことがない子が多い。これまでも中学生の支援に力を注いできたが、小学生の

「ひとり親世帯の貧困率は50%を超えることから、対策を整理する。総合的、包括的な支援を行っている。子どもたちの状況は、収入が1人分で厳しい状況にある。入学費用を工面できない世帯もある。子どもたちの学習支援もしているが、塾に通うことがない子が多い。これまでも中学生の支援に力を注いできたが、小学生の

「ひとり親世帯の貧困率は50%を超えることから、対策を整理する。総合的、包括的な支援を行っている。子どもたちの状況は、収入が1人分で厳しい状況にある。入学費用を工面できない世帯もある。子どもたちの学習支援もしているが、塾に通うことがない子が多い。これまでも中学生の支援に力を注いできたが、小学生の

「ひとり親世帯の貧困率は50%を超えることから、対策を整理する。総合的、包括的な支援を行っている。子どもたちの状況は、収入が1人分で厳しい状況にある。入学費用を工面できない世帯もある。子どもたちの学習支援もしているが、塾に通うことがない子が多い。これまでも中学生の支援に力を注いできたが、小学生の

「ひとり親世帯の貧困率は50%を超えることから、対策を整理する。総合的、包括的な支援を行っている。子どもたちの状況は、収入が1人分で厳しい状況にある。入学費用を工面できない世帯もある。子どもたちの学習支援もしているが、塾に通うことがない子が多い。これまでも中学生の支援に力を注いできたが、小学生の

「ひとり親世帯の貧困率は50%を超えることから、対策を整理する。総合的、包括的な支援を行っている。子どもたちの状況は、収入が1人分で厳しい状況にある。入学費用を工面できない世帯もある。子どもたちの学習支援もしているが、塾に通うことがない子が多い。これまでも中学生の支援に力を注いできたが、小学生の

「ひとり親世帯の貧困率は50%を超えることから、対策を整理する。総合的、包括的な支援を行っている。子どもたちの状況は、収入が1人分で厳しい状況にある。入学費用を工面できない世帯もある。子どもたちの学習支援もしているが、塾に通うことがない子が多い。これまでも中学生の支援に力を注いできたが、小学生の

「ひとり親世帯の貧困率は50%を超えることから、対策を整理する。総合的、包括的な支援を行っている。子どもたちの状況は、収入が1人分で厳しい状況にある。入学費用を工面できない世帯もある。子どもたちの学習支援もしているが、塾に通うことがない子が多い。これまでも中学生の支援に力を注いできたが、小学生の

「ひとり親世帯の貧困率は50%を超えることから、対策を整理する。総合的、包括的な支援を行っている。子どもたちの状況は、収入が1人分で厳しい状況にある。入学費用を工面できない世帯もある。子どもたちの学習支援もしているが、塾に通うことがない子が多い。これまでも中学生の支援に力を注いできたが、小学生の

「ひとり親世帯の貧困率は50%を超えることから、対策を整理する。総合的、包括的な支援を行っている。子どもたちの状況は、収入が1人分で厳しい状況にある。入学費用を工面できない世帯もある。子どもたちの学習支援もしているが、塾に通うことがない子が多い。これまでも中学生の支援に力を注いできたが、小学生の

「ひとり親世帯の貧困率は50%を超えることから、対策を整理する。総合的、包括的な支援を行っている。子どもたちの状況は、収入が1人分で厳しい状況にある。入学費用を工面できない世帯もある。子どもたちの学習支援もしているが、塾に通うことがない子が多い。これまでも中学生の支援に力を注いできたが、小学生の